



2015(平成27)年7月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL/06-6879-5021

http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

医学部保健学科との連携により 優しく高度な医療を推進

重要性増すチーム医療

現在の医療は、医師・看護職・医療技術者など多職種
の連携で成り立っています。そのため専門職としての意
見を持ち、現場でコミュニケーションをとりながら医療
を進められる優れた人材の育成が大きな課題です。今回
は本院の金倉護病院長が、医師以外の医療専門職育成に
取り組む大阪大学医学部保健学科の三善英知学科長を招
き、医療現場の現状を見据えた保健学科の教育や、病院
との連携の重要性などについて語り合いました。



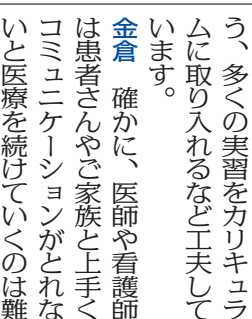
特別対談
金倉病院長
三善学科長

金倉 阪大病院では、医師、
看護職員、薬剤師、医療技術
者、事務職員など約2500
名が医療に携わっています。
医療が高度化・複雑化するな
かで病院の業務は細分化され、
さまざまな職種の医療スタッ
フの連携が極めて重要になっ
てきています。そのような現
状のなかで、「高度な医療スベ
シヤリスト」の育成を目標と

して掲げる保健学科の取り組み
は、本院のみならず日本の医療
の未来にも直結する大きな役割
を担っていると思います。
三善 大阪大学医学部の源流
は江戸時代に緒方洪庵が適塾
を開設したのが始まりで、明
治時代に看護師・助産師教育
が開始され、戦後間もなく大
阪大学看護学校が開校。昭和
42年には日本で最初の国立医
療技術短期大学として発足し、
看護科・診療放射線技術科・

衛生技術科の3科が整備され
ました。平成5年には4年制
大学保健学科となり、平成10
年から大学院(博士前期・後期
課程)が順次設置され、現在ま
でに3000名以上の学生が
卒業し、研究者レベル(修士・
博士)の人材1000名以上
を、阪大病院をはじめとする
医療の現場に送り出していま
す。病院長が話されたチーム
医療の重要性などを強く認識
し、専門知識・技術を基に自
ら考えることのできる医療専
門職を育成したいと考えてい
ます。

金倉 保健学科との連携を深
めることで、より高度な医療
を実現していきたいと考えて
います。そのため、私と三善
学科長に加えて、清水安子副
学科長、野口眞二郎副病院長、
越村利恵看護部長、吉原正啓
事務部長、土井司医療技術部
長などの方にも参加してい
た。二ヶ月に一度、定期的
に集まって活発な議論や交流
をする連携会議をスタートさ
せました。また多くの保健学
科の学生が本院の病棟・外来
で実習を行っており、平成25
年度における「看護学専攻」
学生の実習参加人数は約7
700名以上にのぼります。
今年度からは14名の優秀な学
生にアシスタントナース(看護
助手)として病院で働いてい
ただけることにもなり大変感
謝しています。



金倉護 病院長

三善 保健学科は、看護学専
攻、放射線技術科学専攻、検
査技術科学専攻の3専攻から
なりますが、いずれの専攻の
卒業生にもぜひ阪大病院に勤
務して欲しいという気持ち

三善 確かに、医師や看護師
は患者さんやご家族と上手に
コミュニケーションがとれな
いと医療を続けていくのは難
しいと思います。私は病院長
として「優しい医療、適(か
な)ざる医療」というキャッチ
フレーズを掲げています。医
師や看護師はプロとして患者
さんと優しく向き合わなけれ

三善 「優しい医療」に関し
て、例えば私の専門領域の肝
臓病学において「脂肪肝」と
いう病気を例にとると、肝臓
の組織を取って調べるのは痛
い検査(肝生検)で、血液中の
バイオマーカーで診断するの
が優しい医療といえるでしょ
うか。痛みを伴う検査は、そ
れが本当に必要な人にだけ行
う、つまり、これからの医療
は患者さんへの負担が少ない
非侵襲的な検査や治療が益々

大切なのは
コミュニケーション能力

金倉 阪大病院には多様な診
療科がありますから、いろい
ろな部門を体験し、自分の適性や
感性に合うところを選び働い
ただければ、そして病院で切
磋琢磨しながら、医師のパート
ナーとなれる有能で頼もしい人
材が育ってほしいですね。人材
育成の教育に携わっておられ
て、看護師を含む医療専門職
は、どのような資質が必要だと
思われますか。



三善英知 保健学科長

はなりません。本院は、患者
さんと優しく向き合って本心
を聞き出せること、そして懸
念に勉強して高いレベルの医
療を提供することを目指して
います。それは検査などに携
わる専門職の人たちにも言え
ることだと思っています。

重要になってくると思います。
そのためには、保健学科の学
生には直接病気に関わらない
基礎研究などにも積極的な
チャレンジしてほしいですね。
金倉 阪大病院は治療だけ
なく、新しい医療の開発や病
気の予測・早期発見、さらに
今後は本院を中核として多様
な臨床研究が行われるよう
な取り組みです。そのために
は医師・看護師だけでなく幅
広い職種の人材が必要にな
ります。本院と保健学科が連
携を深めることで優秀な人材
が活躍できるチャンスが広が
り、新しい医療を創れるので
はないかと期待しています。
また高レベルの看護、高精度
の検査ができる医療専門職が
本院に集まることで、患者さ
んは、よりの確な診断と満足
度の高い医療を受けることが
できると考えています。

「おすすめ御膳シリーズ」第三弾！
越村看護部長おすすめ
ヘルシー御膳

今回は越村利恵看護部長と打ち合わせを重ね、『精進料理のよ
うなヘルシーさと、満足感のあるボリュームを両立した、初夏に
ふさわしいメニュー』をコンセプトにしました。夏野菜など季節
を感じられる食材を使い、調理法や味付けの組み合わせにもこ
だわったメニューです。

患者さんからは「お料理屋さんに行ったような気分になりました」
「料理がちょっとずつ盛られていて、こまやかで良かったです」
「生麩(なまふ)が入っていて綺麗でした」「ボリュームもあつ
て良かったです」「ランチョンマットに描かれている花が綺麗で、
自宅で植えている花を思い出しました」など、嬉しい感想をたく
さんいただきました。

越村看護部長おすすめヘルシー御膳のレシピ紹介！
～田楽：材料(1人分)～

作りかた

- ① オクラはがくを取り、塩(分量外)でこすって、うぶ毛を取り、洗っておく。
- ② 茄子は皮を等間隔に縦にむいて洗い、3～4cmの乱切りにする。
- ③ 生麩はカットし、しっかり水気を切っておく。
- ④ オクラと生麩は1分、茄子は2分、160℃の油で裏返ししながら素揚げにする。
- ⑤ 弱火にかけた鍋に白味噌と砂糖、だし汁とみりんの順に混ぜながら入れ、照りが出たら火を止める。
- ⑥ 油を切った④を盛り付け、⑤をかける。

茄子・・・40g
オクラ・・・20g
生麩・・・20g
サラダ油・・・6g
白味噌・・・5g
砂糖・・・2g
みりん・・・1.5g
だし汁・・・1g

紫陽花が大輪の花を咲かせる季節となりました。皆様の日も早いご回復と心よりお祈り申し上げます。
看護部長 越村利恵

＊お品書き＊
塩焼き 田楽 添え
すまし汁
酢の物
卵豆腐

平成27年6月22日
阪大病院
栄養士 調理師 何

越村看護部長おすすめ
「ヘルシー御膳」

各委員会の委員長と金倉病院長

幅広い職種が連携し、
新たな医療の創造を

質の高い倫理審査
委員会に認定

本院に設置されている介入研究倫理
審査委員会、観察研究倫理審査委員会、
未来医療倫理審査委員会が、「質の高い
倫理審査委員会」として厚生労働省よ
り認定を受けました。

これは、政府が倫理審査委員会の質
の保証を初めて認定するもので、本院
は200件以上の申請から認定された
9施設のうちの一つとなりました。

各委員会の委員長と金倉病院長

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

5/12 ふれあい看護体験 7/3 七夕コンサート



笑顔はじける 院内学級運動会



6月19日に小児医療センターで、院内学級が毎年恒例の大運動会を行いました。

美容室(スヴェンソン)オープン



5月12日に本院の美容室がリニューアルオープンしました。

阪大病院を見学してみませんか

本院では、下記のとおり見学会を開催いたします。

- 実施日時 9月24日(木) 14時~16時30分
●申込締切 9月3日(木) 必着
●対象者 一般市民(成人、個人)
●募集人員 15人
●申込方法 必要事項(①氏名 ②性別 ③年齢 ④郵便番号 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦あなたが阪大病院に抱くイメージ ⑧見学を希望する理由)を明記のうえ、はがき、FAXまたは電子メールによりお申込みください。

◇送付先(問合せ先): 〒565-0871吹田市山田丘2-15
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係
TEL: 06-6879-5020, 5021
FAX: 06-6879-5019
e-mail: ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

- 見学場所 ドクターヘリ、臨床検査部など(※都合により見学場所が変更になる場合があります。)
●決定通知 応募者多数の場合は抽選により決定し、参加の可否をはがきでお知らせします。
●注意事項 見学では、かなりの距離を歩きます。階段の昇り降り等もありますので、歩きやすい靴でお越し下さい。

本院で薬物療法(化学療法、分子標的療法)を受けるがん患者数は、近年著しく増加しています。



現在の手狭な化学療法室では十分に対応できない状況でしたが、9月に開設されるオンコロジーセンター棟では、受け入れ患者数を倍増するとともに、より安全かつ快適な環境で薬物療法を実施します。

オンコロジーセンター棟がオープンします!

より良い紙面づくりのために、阪大病院ニュースへの皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。
ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

血液・腫瘍内科

地道な研究が実を結び 希少疾患や難病治療で 大きな実績



診断、治療するのが血液・腫瘍内科です。血液の病気を、みよの細胞へ酸素や栄養を届け、二酸化炭素や老廃物を運び出す血液。その病気を

悪性疾患とは、急性白血病や悪性リンパ腫など「血液の病気が」といわれる病気を指します。これに対して非悪性疾患は、血液を再生しなく再生不良性貧血などが挙げられます。

血液の悪性疾患は、ほかの臓器のものと比べて、完全に治す治療を行いやすいことが特徴です。血液は抗がん剤に対する感



骨髄から血液を採取して白血病診断などに使用する

受性が良く、血液の領域の薬は極めてよく効くというのがその要因です。日々進歩する抗がん剤や放射線治療、造血幹細胞移植など、個々の患者さんにあった治療法を組み立てることで完治の確率を上げています。

また当科は、希少疾患である発作性夜間血色素尿症(PNH)の診断、検査において、長年の研究により国内で中核的な役割を担っているほか、難病の特発性血小板減少性紫斑病についても多くの実績があります。

卒業教育 開発センター 専門医育成目指した 初期研修を実施



卒業教育開発センターは、平成16年度より必修化された医師の初期臨床研修に対応するために設置された部門です。当センターの使命は、専門医育成を視野に入れた初期研修の提供です。主な業務は、研修プログラム

本院における初期研修プログラムの特徴は、移植医療、遺伝子治療など先進医療を実際に体験する機会を持つことです。専門を究めて患者さんに尽くす本院医師の姿は、初期研修医に「自分もこのような医師になりたい」と思わせるロールモデル

けの規模を持つ血液内科は国内でもあまり例がありません。こうした充実した設備の中で、患者さん一人一人の病状、年齢や人生観、ご家族の状況、治療後の生活などを考慮し、さまざまな視点から治療の方向を提案するチーム医療を進めています。前田哲生病棟医

長は「医師や看護師、カウンセラーらスタッフが密に情報を交換、共有し、できるだけ多数の目で見て、みんなで患者さんとご家族をフォローするという姿勢で取り組んでいます」と話します。

また、周辺にある19の関連病院の専門医らと共に、データの収集や情報発信をする研究組織「阪大クリニカルブラッドクラブ」を結成し、診療の現場で役立つ体制も整ってきました。織谷健司診療局長は「血液の領域は長く地道な研究の成果が今、臨床の場

で花開き実を結んでいる時期と言えます。新しい薬もどんどん開発されており、臨床試験にも積極的に参加しています。今後は、移植を含め、今までやってきたことをさらに充実させ、関連病院とも協力しながら、患者さんに最新の情報とよりよい医療を提供できるように努めます」と話しています。

特定集中治療室が本格稼働

前号でお伝えしました「特定集中治療室(高機能ICU)」のリニューアルが行われ、稼働を開始しました。今後も順次増床を行い、重症患者さんに対する治療のより一層の充実を目指します。



年度から専門医育成プログラムを提供し、平成26年度からは医学教育センターと機能的な統合を果たしました。これにより、卒前教育、初期研修、専門医教育まで一貫した医学教育の管理・運営を行なう体制が確立されました。卒前教育で培われた総括評価のノウハウを初期研修に転用する、初期研修で培われた臨床経験のチェックリスト

を卒前教育に活用するなど、具体的な成果が得られています。今後の課題は、新しい専門医制度への対応です。現在、専門医制度の現状と大阪大学としての対応に関して情報を収集している段階であり、それら情報を適宜活用しながら専門医育成につながる初期研修プログラムの実現を目指します。